

日奈久断層帯沿いに約 33km の地表地震断層を確認（速報）

2026 年 8 月 6 日

遠田晋次¹⁾・鳥井真之²⁾・Luca Malatesta¹⁾³⁾・高橋尚志¹⁾・飯塚浩太郎⁴⁾・原 勇貴⁵⁾

1) 東北大学災害科学国際研究所, 2) 熊本大学くまもと水環境・減災研究教育センター, 3) Helmholtz Centre for Geosciences (GFZ), 4) 兵庫県立大学環境人間学部, 5) 応用地質株式会社

2026 年 7 月 28 日 16 時 27 分頃に発生した熊本地震（M7.1）の地表地震断層（以下、地震断層）の分布と変位量（ズレ）を明らかにするため、上記研究グループで 7 月 31 日～8 月 3 日に現地調査を行いました。その結果、日奈久断層帯北部の約 33km の区間に断層変位を確認しました（図 1）。これらの分布は概ね日奈久断層帯（地震本部, 2013）高野白旗区間と同断層帯日奈久断層帯区間の北部にあたり、一部区間を除き国土地理院都市圏活断層図（後藤ほか, 2018）の断層線に概ね沿って出現しています（図 2）。

地震断層は右横ずれ変位がほとんどの箇所で確認されるほか、場所によっては上下変位も顕著です。断層変位は宇城市小川町～氷川町にピークがあり、地下の震源断層モデル（地震調査研究推進本部, 2026）から推定される変位量の大きい区間（アスペリティ）と整合します。最大の右横ずれ変位は氷川町で約 1.8m、最大の上下変位は八代市八代ジャンクション付近で約 1.5m 東上がりです。また、今回の地震断層北部の約 5km 区間は 2016 年熊本地震（M7.3）とその後の余効すべり（遠田ほか, 2021）でも右横ずれ変位が生じた部分で、今回の地震で最大約 20cm の右横ずれ変位が確認されました。これらの地震断層に沿って道路や建物の被害が顕著で、比較的新しい家屋の被害も目立ちます。また、小学校のグラウンドと校舎も断層の直撃を受けています（写真 13～16）。さらに、ライフラインの 1 つである水道管（写真 9）や八代ジャンクション近くの九州自動車道（写真 18, 19）など線状構造物も断層変位によって被害を受けています。

現在、ドローン画像・衛星測地データも分析し、さらに詳細な分布図を作成中です。その結果は後日報告します。

文献：

後藤秀昭・楳原京子・熊原康博・小山拓志・千田 昇・中田 高（2018）：都市圏活断層図「八代（改訂版）」。

地震調査研究推進本部（2013）：布田川断層帯・日奈久断層帯の評価（一部改訂）。

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/93_futagawa_hinagu_2.pdf

地震調査研究推進本部（2026）：令和 8 年熊本地震の評価。

https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2026/20260728_kumamoto_1.pdf

遠田晋次・鳥井真之・小俣雅志・三五大輔・石澤亮史（2021）：日奈久断層帯北端部で確認された熊本地震の地表余効すべり，活断層研究，54，39-56。

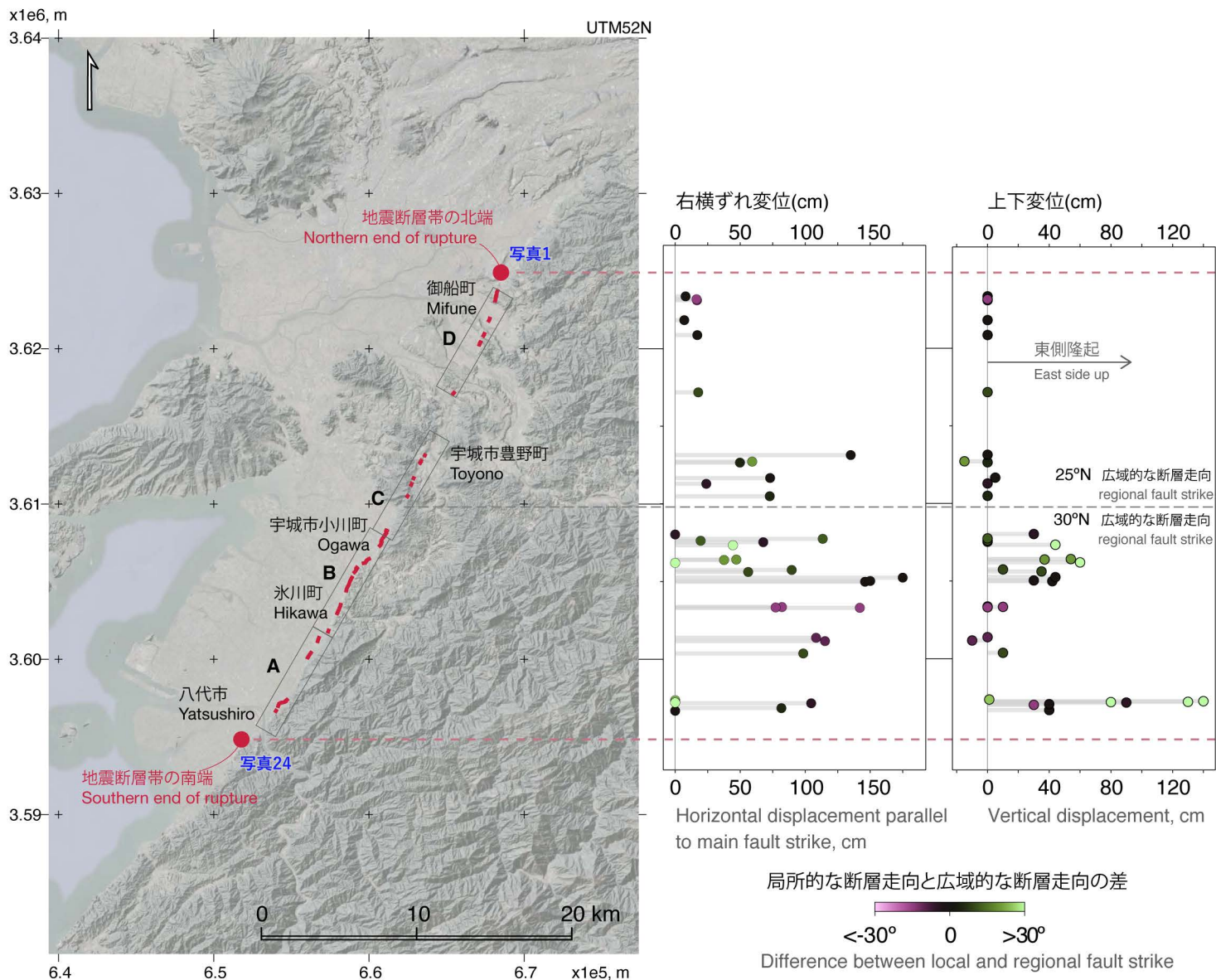


図1 令和8年熊本地震にともなって現れた地表地震断層の分布（マップの赤線）
 おおむね右横ずれ変位で特徴付けられる．最大変位は横ずれ175cm．局所的に上下変位も顕著で，八代ジャンクション付近で約150cm．分布域は長さ約33kmに及ぶが，主たる断層変位は宇城市豊野町以南の20km強に限られる．マップでは断続的な分布に見えるが，これは未踏査のためであり，今後の調査・画像解析によってほとんどの区間がつながると考えられる．

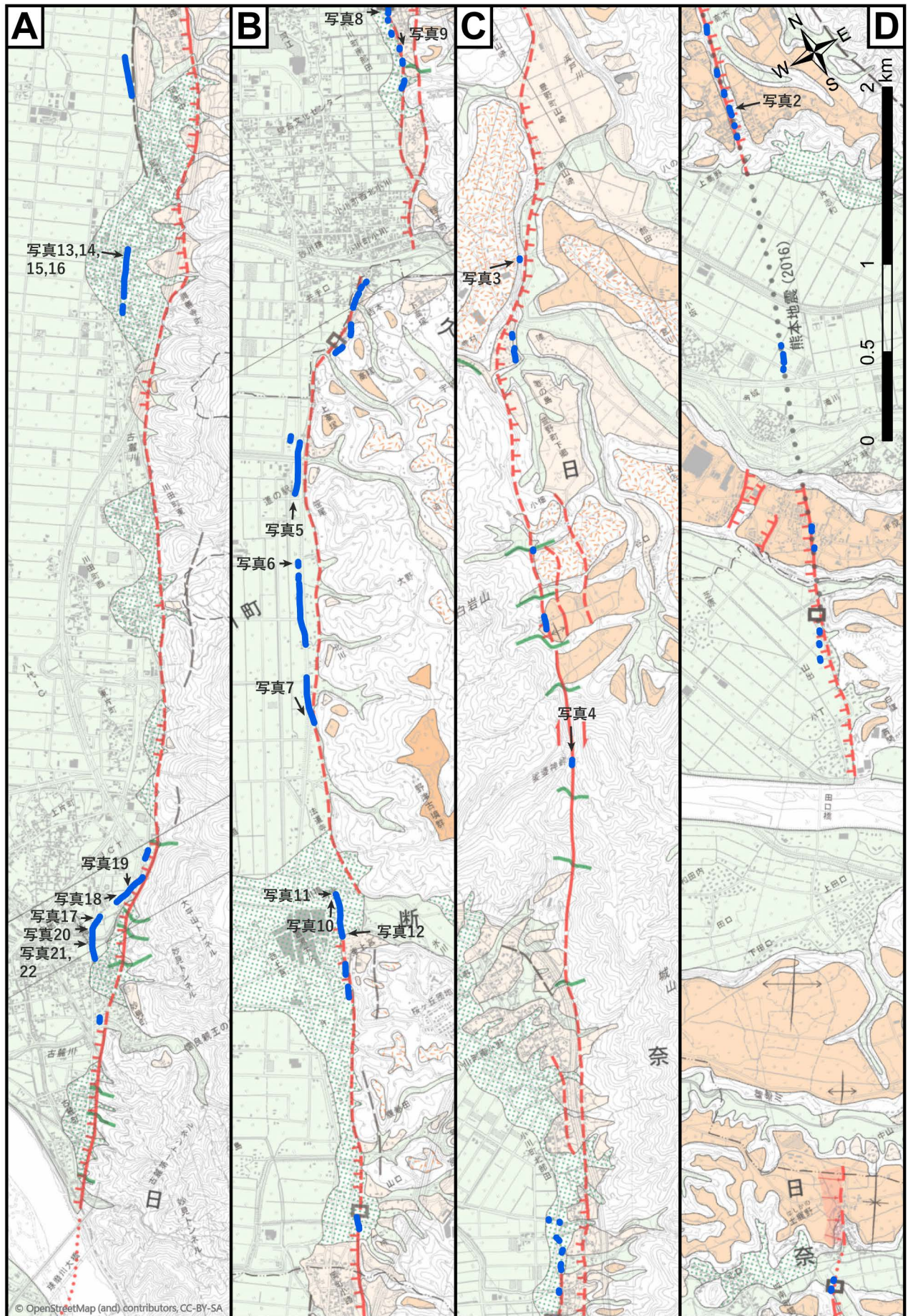


図2 令和8年熊本地震にともなって現れた地表地震断層の詳細分布（青線）

背景は国土地理院都市圏活断層図で、赤線が事前の活断層位置。写真番号は次ページ以降の写真の位置。矢印の向きはおおよその撮影の向きを示す。マップでは断続的な分布に見えるが、これは未踏査区間が多いためでもある。



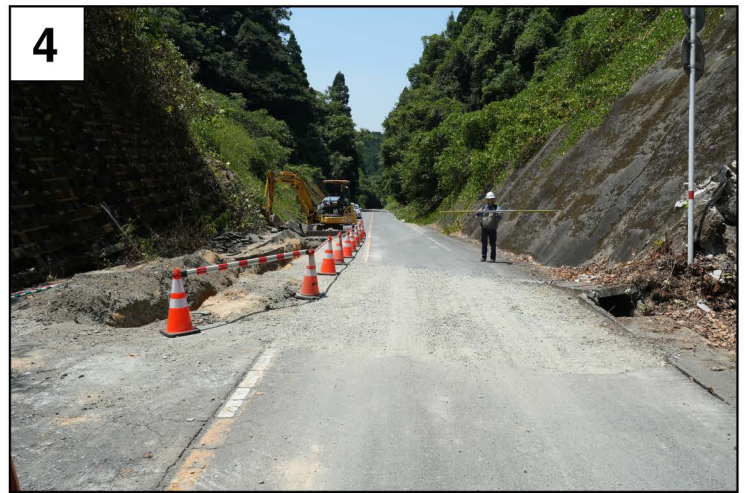
御船町土山の道路を横切る地震断層。今回の地震断層帯の北限とみられる。2016年熊本地震、その後の余効すべりでも横ずれした。今回、新鮮なクラックが生じる。道路は約9年前に再舗装。7月28日鳥井撮影。



御船町高木のブロック塀の右横ずれと新鮮な雁行クラック。2016年地震、その後の余効すべりで当初から80cm以上屈曲したが、2026年地震でもわずかに変位。新鮮な雁行クラックと塀の破壊がみられる。8月2日遠田撮影。



宇城市豊野町山崎の国道218号線を横切る地震断層。右横ずれ135cm。8月2日遠田撮影。



宇城市県道244号線娑婆峠付近に現れた地震断層。右横ずれ73cm。8月2日遠田撮影。



氷川町道の駅「竜北」の駐車場を縦断する地震断層。杉型雁行配列が顕著。地震直後に砂が充填されている。8月1日遠田撮影。



氷川町道の駅「竜北」の約500m南方で道路を顕著に右横ずれさせる地震断層。白線や道路脇のブロックが175cm右横ずれしている。8月3日遠田撮影。



7 国道3号線を横切る地震断層。上下変位も顕著で、スローダウンを余儀なくされる車両。8月3日遠田撮影。



8 宇城市小川町南部田の守山八幡宮前の道路を横切る地震断層。左手の白壁と排水路ブロックが右横ずれしている。8月1日遠田撮影。



9 水道管を破断させた地震断層。宇城市小川町南部田。バックホウ側が隆起。人物側が低下。右横ずれもともなう。8月2日遠田撮影。



10 断層の上下変位で傾いた家屋。宇城市小川町小川。7月29日鳥井撮影。



11 宇城市小川町小川。上下変位と右横ずれ変位が同程度に認められる。7月29日鳥井撮影。



12 国道443号線を横切る地震断層。右横ずれ140cm。氷川町宮原栄久。→の部分断層が横切り、断層帯部分が若干隆起。8月1日遠田撮影。



八代市岡町の八代小学校龍峯小学校の校庭を横切る地震断層。杉型雁行クラックが顕著。8月3日遠田撮影。



八代市岡町の八代小学校龍峯小学校の校庭を横切る地震断層。ドローンによる空撮。8月3日鳥井撮影。



八代市岡町の八代小学校龍峯小学校の校庭を横切る地震断層。運動場の白線トラックが約 100 cm 右横ずれしている。8月3日遠田撮影。



八代市岡町の八代小学校龍峯小学校の校庭から校舎に延びる地震断層。8月3日遠田撮影。



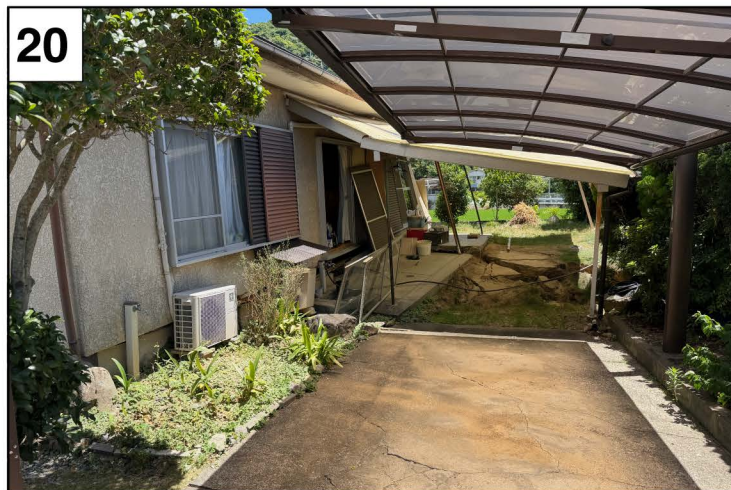
八代市宮地町の水田を横切る地震断層。右横ずれ変位量 105 cm。東側隆起の上下変位量 90 cm。7月31日遠田撮影。



九州自動車道八代ジャンクションへ向かってのびる地震断層。北東をのぞむ。7月29日鳥井撮影。



19 九州自動車道八代ジャンクション付近の橋脚を変位させる地震断層。最大 1.5m の隆起と右横ずれを確認。7 月 31 日遠田撮影。



20 八代市宮地町の民家下を横切る地震断層。家屋の東側が西に向かって傾く。7 月 31 日遠田撮影。



21 八代神社の駐車場脇の排水路の右横ずれ。上下変位も顕著で東側隆起。7 月 31 日遠田撮影。



22 八代神社の社殿を横切る地震断層。西側の低下により社殿が撓む。7 月 31 日遠田撮影。



23 球磨川左岸の八代市豊原上町。国道 219 号線を横切る地震断層。7 月 29 日鳥井撮影。



24 八代市豊原下町。確認できた地震断層のほぼ最南端。8 月 3 日鳥井撮影。